新規事業採択時評価結果（令和7年度新規事業化箇所）

担　当　課：　道路局　国道・技術課
担当課長名：　西川　昌宏

事業の概要

事業名	一般国道58号 宜野湾道路	事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自：沖縄県中頭郡北谷町北谷 至：沖縄県宜野湾市宇地泊			延長	5.8　km

事業概要

沖縄西海岸道路は読谷村から糸満市に至る延長約50kmの高規格道路である。このうち、宜野湾道路は沖縄県中頭郡北谷町北谷から沖縄県宜野湾市宇地泊に至る延長5.8kmの自動車専用道路である。

事業の目的、必要性

国道58号北谷町から宜野湾市の交通混雑の緩和、交通事故減少に伴う安全性の確保を図るとともに、中南部西海岸の連結による那覇港・那覇空港とのアクセス強化や物流の効率化、観光産業を支援するものである。

全体事業費	約　1,710　億円	計画交通量	約　56,800　台／日

事業概要図

関係する地方公共団体等の意見

【沖縄県知事】

新規事業採択時評価に係る一般国道５８号宜野湾道路の予算化について、直轄事業の負担者として、同意いたします。

一般国道５８号宜野湾道路は、読谷村から糸満市に至る高規格道路沖縄西海岸道路の一部を構成し、中南部都市圏の渋滞緩和や、那覇空港及び那覇港へのアクセス向上に資する極めて重要な道路であると認識しております。

本道路の現道である国道５８号及び宜野湾バイパスは、沖縄本島中南部の人口集中地域と、北部の観光リゾート地域を結び人流及び物流の基軸を担っており、生活・産業・観光に係るあらゆる交通が集中することから、慢性的な渋滞が発生しております。

さらに宜野湾道路の前後区間では、浦添北道路の暫定２車線開通や北谷拡幅整備着手などの幹線道路網の整備が進捗するなど、本区間整備の重要性は増々高まっているものと認識しております。

本県としましては、事業が円滑に推進されるよう、完成後の現道移管について、沖縄西海岸道路の整備状況も踏まえて、調整するとともに、基幹バスシステム導入等、公共交通の利便性向上と交通の円滑化を図るための取組を推進してまいります。

つきましては、令和７年度において、本道路の新規事業化を行い、早期完成供用が図られますよう、特段のご配慮を賜りますようお願いし申し上げます。

学識経験者等の第三者委員会の意見

・新規事業化については妥当である。

対応方針（採択理由）

費用便益比が一体評価で 1.6 と便益が費用を上回っているとともに、計画段階評価、都市計画変更の手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。

また、当該区間の整備により国道 58 号や号宜野湾バイパスの渋滞緩和、安全性の向上、緊急医療活動の支援、所要時間短縮による産業活動及び観光産業支援の効果が期待されるなど、当該事業の整備の必要性・効果は高いと判断出来る。

以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

事業評価結果（総合評価）

事業採択の前提条件

■便益が費用を上回っている
■事業実施環境が整っている

費用便益分析	B/C		（参考）	EIRR	総費用 11,007 億円	総便益 17,342 億円		感度分析		基準年
	〔4%〕	1.6 (1.4)	2.2	6.4% (5.6%)	事業費: 10,475 億円 維持管理費: 302 億円 更新費: 230 億円	走行時間短縮便益: 14,849 億円 走行経費減少便益: 2,093 億円 交通事故減少便益: 401 億円	（参考） 時間信頼性向上便益: 6,566 億円 CO2排出削減便益: 46 億円	交通量変動	B/C＝ 1.5～1.7 （変動ケース:±10%）	令和6年度
（参考）	〔2%〕	2.1 (2.1)	3.0					事業費変動	B/C＝ 1.5～1.6 （変動ケース:±10%）	
	〔1%〕	2.6 (2.6)	3.6					事業期間変動	B/C＝ 1.6～1.6 （変動ケース:±20%）	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率（4%）を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。
※B/Cは沖縄西海岸道路全体（読谷村～糸満市）を対象とした場合の値、（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。
※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。（〔 〕内は社会的割引率の値）

事業の影響	評価項目		評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	交通転換により、渋滞緩和が図られる。 【混雑度の改善】 現況 1.46 → 整備後 1.08（3割減少）
		事故対策	○	交通渋滞の緩和により、死傷事故が減少し、安全性が向上。 【死傷事故件数の減少】 現況 79件/年 → 整備後 62件/年（約2割減少）
		歩行空間	○	通過交通の転換に伴う、現道等の交通量減少により、歩行者、自転車の安全性向上に寄与。
	社会全体への影響	住民生活	◎	交通転換、渋滞緩和による緊急医療活動の支援。 【課題】 ・基地返還後の西普天間地住宅跡地では、救命救急センターを有する琉球大学病院等、沖縄健康医療拠点として整備が推進。 ・浦添方面から琉球大学病院へのルートは、国道58号及び宜野湾バイパスがあるが、ピーク時の旅行速度低下による交通渋滞により、緊急搬送を阻害。 【効果】 ・宜野湾道路への交通転換、渋滞緩和により、救急医療活動を支援。 【混雑度（国道58号・宜野湾バイパス）】 宜野湾バイパス 現況 2.00 → 整備後 1.10（5割減少）、国道58号 現況 1.33 → 整備後 1.11（2割減少） 【琉球大学病院（宜野湾市）への30分到達圏域人口 現況 92.4万人 → 整備後 94.1万人（約1.7万人増加）
		地域経済	◎	所要時間短縮による産業活動の支援。 【課題】 ・中北部から那覇港や那覇空港への農産物の搬送ルートとして当該地域周辺の道路が利用されているが渋滞により円滑な輸送を阻害。 【効果】 ・所要時間の短縮等により、空港・港と物流施設間のアクセス強化や物流の効率化に寄与。 【所要時間（菊の集荷場（読谷村）→那覇港（那覇市））】 現況 61分 → 整備後 50分（約11分短縮）
		災害	○	当該地域において、災害時の緊急輸送道路として、迅速な道路啓開に寄与。
		環境	○	沿道環境（CO2排出量）の改善。 【CO2排出削減便益】 約46億円
		地域社会	◎	所要時間短縮による観光産業の支援。 【課題】 ・観光施設が多数立地している中部西海岸への観光客への立ち寄りが多いものの、ピーク時の交通渋滞により、那覇空港等からのアクセス強化が課題。 【効果】 ・所要時間の短縮等により、空港・港と主要観光移設のアクセス強化や観光振興に寄与。 【所要時間（那覇空港（那覇市）→アメリカンビレッジ（北谷町））】 現況 51分 → 整備後 38分（約13分短縮）

事業実施環境

・計画段階評価手続き完了（令和4年12月20日）、都市計画決定手続き完了（令和6年2月27日）
・宜野湾市長、北谷町長、中部市町村会、中部振興会、沖縄県道路利用者会議などから、北谷～宜野湾の早期事業化を要望。

事業評価結果（防災機能）

事業の必要性

国道 58 号北谷町から宜野湾市の交通混雑の緩和、交通事故減少に伴う安全性の確保を図るとともに、中南部西海岸の連結による那覇港・那覇空港とのアクセス強化や物流の効率化、観光産業を支援

評価項目	地域の課題	関連する計画
救助活動等	・北谷町と宜野湾市の一部西海岸地域は、津波浸水想定区域内に含まれており、津波災害時や発災直後に通行可能な道路の確保が課題	※沖縄県ブロック新広域道路交通ビジョン（R3.3） ・災害時に道路ネットワークの連続性を確保するために、津波に対して脆弱な箇所の機能強化を進めていく。 ※沖縄県における社会資本整備重点計画（R3.8） ・災害に強い国土幹線道路ネットワークの機能を確保するため、高規格道路のミッシングリンクの解消及び暫定 2 車線区間の 4 車線化、高規格道路と代替え機能を発揮する直轄国道とのダブルネットワークの強化等を推進。
住民生活	・基地返還後の西普天間住宅地区跡地では、救急救命センターを有する琉球大学病院等、沖縄健康医療拠点として整備が推進。 ・浦添方面から琉球大学病院へのルートは、国道 58 号及び宜野湾バイパスがあるが、ピーク時の旅行速度低下による交通混雑により、救急搬送の阻害が課題	※新・沖縄21 世紀ビジョン基本計画（R4.5） ・陸上交通については、拠点都市間の移動の円滑化、慢性的な交通渋滞の緩和を図るため、沖縄西海岸道路の整備を促進するとともに、体系的な幹線道路網の構築を図ります。
地域経済 地域社会	・中北部から那覇港や那覇空港への農産物の搬送ルートとして当該地域周辺の道路が利用されているが渋滞により円滑な輸送の阻害が課題 ・観光施設が多数立地している中部西海岸へ観光客の立ち寄りが多いものの、ピーク時の交通渋滞により、那覇空港からのアクセス強化が課題	※沖縄県ブロック新広域道路交通ビジョン（R3.3） ・他都道府県と比較して港湾・空港は、物流の観点から非常に重要であり、那覇港・那覇空港と本島内の拠点を結ぶ道路ネットワークの強化を進める。 ・本島を訪れる観光客の多くが那覇空港・那覇港から観光拠点へ向かうことから、那覇地域から沖縄県へ広く分布する各観光拠点へのアクセス性の向上を支援するハシゴ道路ネットワークの整備を推進する。
その他		

事業の有効性

・当該事業の実施により、災害時の主要拠点間のリンク評価に変化はないものの、当該地域において、災害時の緊急輸送道路として、迅速な道路啓開に寄与する。

・また、本事業により、中南部海岸地域の連結による那覇港・那覇空港とのアクセス強化や物流の効率化、観光産業の支援、渋滞緩和による救急医療活動の支援など有効性の高い事業と評価する。

	主な区間		改善ペア数	脆弱度（防災機能ランク）		累積脆弱度の変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
道路ネットワークの防災機能	那覇駐屯地	北谷町	9 (3)	1.00 [D] (1.00) [D]	1.00 [D] (1.00) [D]	4.40 (7.14)	0.08 (0.05)	0.00 (0.00)	○ (○)

事業の効率性

・計画段階評価手続きの完了（R4.12.20）、都市計画決定手続き完了（R6.2.27）

※道路ネットワークの防災機能の値は、親志～真栄里を対象とした場合の値、（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果。